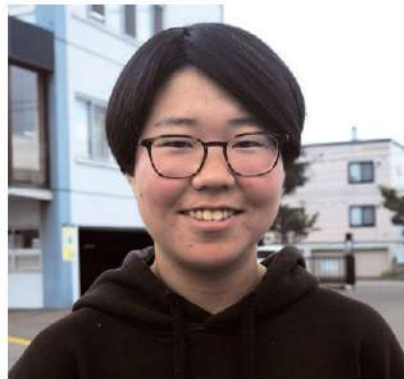


初めて運転するマイカー感覚のクルマが、部の専用車でワゴンタイプ。このため、将来マイカーにするならどんなクルマが欲しいかという質問には「大きめのワゴンタイプが良いです」と声を揃える。高橋さんは「帰省した際に父のクルマ（セダンタイプ）を車庫から出そうとしたのですが、運転席からの視野が遠いので断念しました」という。ワゴンタイプは着座位置が高く、視界も広い。これに慣れてしまうと、全高の低いクルマに乗り込んだ際に違和感を覚えることだろう。

大阪に住んでいたこともあるという早坂さんは「大阪だと道を譲った際などにクラクションでお礼を言うことが多いのですが、北海道で



一方、獣医師を目指している高橋さんは北海道内に就職先を見つける可能性が高く、冬期間はもともと、隣町まで1

気候も慣習も北海道ならでは

札幌市在住 22歳 高橋 那央子（たかはしなおこさん）

はあまり見ません。逆にサンキューハザードをよく見かけます」と、土地柄によるクルマ同士のコミュニケーションに驚かされたそう。そういう札幌市内でもクラクションを鳴らした場合光景は激減しているように思える。何か原因があるのか関心をそそられる。

応援団にも応援吹奏団にも、そしてお二人の学部の友人たちにも、運転免許を取得した人チャレンジ中の人は多いそう。若者のクルマ離れは一時より解消されてきているかもしれない。ただお二人が「在学中にマイカーは持てないと思います」という理由が維持費の高さ。保

部活の遠征でひたすら運転しています！



場、税金、燃料費、車検整備、とマイカーにかかる経費は増加の一途をたどっている。特に北海道では必需品だけに、維持費の縮小を望みたいものだ。

北海道中央自動車学校

札幌市東区北25条東1丁目1-17 TEL 011-711-3344
代表：工藤博樹 学校長：佐藤隆幸



充実した施設とカリキュラム、そして夜10時までのロングラン教習が在校生に好評。地下鉄南11線「北24条駅」から徒歩8分にある。学科コースのほか、各種安心プランを充実。AT教習車にはトヨタ教習車を採用していることも特徴のひとつ。教習・検定ともに土・日・祝日も実施。各検定試験の合格率は常にトップクラスを誇る。



職員からひと言

北海道中央自動車学校
教習指導員

浅野 逸貴さん
(あさの いつき)

今春、新卒で指導員となりました。年齢が近い若い方々からご年配の方まで、生徒さんお一人お一人に対して「もっとも伝わりやすい方法」を考えながら接するよう心掛けています。場内教習で確認動作がうまくできない生徒さんがいらしたのですが、自ら考えて運転するよう色々アドバイスさせていただいた結果、仮免許で路上に出た際、非常にスムーズに運転されたのを目の当たりにし、とても感動しました。クルマは便利である一方、危険性も持ち合わせている乗り物です。その認識を忘れず、加害者になることのないよう、日々確認は怠らないよう安全運転をお願いいたします。

運転免許 にとって 第20回 夢見るカーライフ



取材・写真／横山聡史 (Lucky Wagon)

運転免許は部活に大活躍中

札幌市在住 21歳 早坂知夏はやさかちなつさん



今回取材させていだいたお二人は札幌市内の同じ大学、同じ学年。学部は異なるものの、早坂さんが応援団、高橋

さんが応援吹奏団に所属し、スポーツ系部活動の大会があると揃って応援に駆けつけるという。野球・サッカー・バレーボール・バスケットボールといったメジャー競技から、アイスホッケー・ハンドボール・ラクロスまで、息のあった応援を行うお二人を取材させていただいたので、同時にご紹介させていただきます。

取材を開始するとすぐに気づいたのが、お二人の声のかすれ具合。日頃から声を張って同様の仲間を応援し続けている証である。出身地を伺うと早坂さんは「神奈川です」と言い、一方の高橋さんは「東京です」とのこと。お二人とも運転免許を取得したのは昨年8月。レンタカーなどで近隣をドライブする程度かとタカをくくっていたらまったく違った。「部活での移動はクルマの方が便利なので、部員と楽器を積んでいるいるな地域へ運転しています」と高橋さん。確かに吹奏楽の楽器運搬は大変だ。応援団の早坂さんは「衣装と太鼓を運ぶので、やはり

自由度も利便性もクルマが一番！



を運びました」という早坂さんは、冬季間の運転にはなかなか苦労されているようだ。看護師を目指しているお二人は、開東園へ戻って就職することになりそう。

クルマ移動が多いです」という。マイカーはないものの応援団にも応援吹奏団にも部活の専用車がある一方で「大学祭の模擬店でコッソリお金を貯めたり、OBからの寄付をいただいたりしながら維持しています」とのこと。

「免許を取得した2週間後にはフェリーに乗って、関東から名古屋、大阪まで運転しましたよ」と早坂さん。「初めての長距離運転が初めての高速道路でした」と高橋さん。さすが応援団、気合が違う。

そもそも運転免許を取得しようと思ったきっかけを伺うと、お二人とも小さい頃からゴーカートが好きで、運転すること自体が好きなのだという。とはいえ「雪のあるエリアで一人暮らししてみたい」という理由で、北海道の大学